

研究・調査報告書

報告書番号	担当
320	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Suicide in prisoners: a systematic review of risk factors. 囚人における自殺：危険因子に関する系統的レビュー	
執筆者	
Fazel S, Cartwright J, Norman-Nott A, Hawton K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Psychiatry. 2008 Nov;69(11):1721-31. Epub 2008 Nov 4. Review.	
キーワード	
囚人、自殺、危険因子	
要 旨	
<p>目的： 囚人における自殺の関連要因を明らかにする。</p> <p>方法： 該当研究の同定方法は以下のとおりである。言語制限を加えず “prison”、“jail”、“felon”、“detainee”、“penal”、“custody” の検索語を “suicide (自殺)” と組み合わせて MEDLINE (1950年～2007年2月)、PsycINFO (1806年～2007年2月)、EMBASE (1974年～2007年2月)、CINAHL (1982年～2007年2月) の電子検索を行った。その中で、自殺により死亡した囚人を対照集団の囚人 (無作為抽出、マッチング、全囚人あるいは平均的囚人集団) と比較した研究を選択した。不均一性 (heterogeneity) の由来を探るため下位集団解析およびメタ回帰を用いた。</p> <p>結果： 本研究の選択基準を満たす 34 研究 (4,780 囚人自殺例) が同定され、そのうち 12 研究がアメリカ合衆国を基にしたものであった。自殺と関連していた人口動態学的因子としては白人 (オッズ比=1.9、95%CI=1.7-2.2)、男性 (オッズ比=1.9、95%CI=1.4-2.5)、既婚 (オッズ比=1.5、95%CI=1.3-1.7)。犯罪学的因子としては独房収容 (オッズ比=9.1、95%CI=6.1-13.5)、政治的抑留者・再拘留者 (オッズ比=4.1、95%CI=3.5-4.8)、終身刑服役者 (オッズ比=3.9、95%CI=1.1-13.3)。臨床学的因子として、最近の自殺念慮 (オッズ比=15.2、95%CI=8.5-27.2)、自殺企図の既往 (オッズ比=8.4、95%CI=6.2-11.4)、現在精神科疾患あり (オッズ比=5.9、95%CI=2.3-15.4)、精神作動性薬物服用中 (オッズ比=4.2、95%CI=2.9-6.0)、過去にアルコール使用に関する問題あり (オッズ比=3.0、95%CI=1.9-4.6)。黒人は自殺とは負の関連があった (オッズ比=0.4、95%CI=0.3-0.4)。研究デザインや発表様式 (publication type) によるリスク評価の差はほとんど認めなかった。</p> <p>結論： いくつかの人口動態学的、犯罪学的、臨床学的因子が囚人の自殺と結びついていることが明らかになった。中でも最も重要なのは独房収容、最近の自殺念慮、自殺企図の既往、現在の精神科疾患あり、問題のあるアルコール使用の既往であった。これらのうちのいくつかは修飾可能な環境、臨床上的の因子である。従って囚人の自殺予防策としてこれらの因子を標的にする余地がある。</p>	